

「江田島の発展を目指して ～自分たちができる地域貢献とは?～」

本単元と関連する9年間で育成する資質・能力

伝え合う力

日 時：令和5年11月17日（金）13:00～13:50

1 指導の方向性について

○単元観

【3学年テーマ 地域に貢献】

江田島市は、広島県南部に位置する人口約21,000人の島しょ部の市である。年々の人口減少は著しく、江田島市観光振興計画の広島市・呉市からみた江田島市の印象についての調査によると、「分からない/よく知らない」が約4割となっており、隣接する都市においても江田島市についての知名度は低く、本市の発展には課題が多いという現状がある。

本単元は、全体計画に定めた探究課題「江田島の発展を目指して」と、昨年度末に生徒が立案した「江田島の魅力を残したい企画」を踏まえて構想した単元である。江田島市の町づくりの現状を市民の思いや、働く人の視点から捉えたり、そこから見えてきた課題を解決するために自分たちができることを考えたりすることが、地域貢献の目標につながると考えた。

江田島市のもつよさを見出し、抱える課題を解決するために多様な他者と協働しながら中学生の視点で自分たちができることを考え実践することを通して、持続可能な町づくりの在り方を考え、ふるさと江田島市に誇りをもち、進んで地域参画しようとする態度を育てたい。

○生徒観（第3学年 34名）

【生徒の実態】

本学年の生徒は、昨年度の「地域を再発見」をテーマに、インターネットでは出てこない自分自身が実感する「本当の江田島の魅力」を語れることを課題とし、自覚ある江田島の様々な魅力を発信した。また他地域の中学生との交流から、地域の魅力を発信するだけに留まらず、持続可能な魅力とするための活動が必要だと気づき、「江田島の魅力を残したい企画」の立案に取り組んだ。

体験活動や他者との交流の中から、主体的・協働的に取り組む態度は養われてきている一方、自分よがりなものの見方で偏った考え方や発信に陥り、目の前にある課題を多角的多面的に捉えることや、様々な情報を整理・分析して自分の考えを構築することに課題がある。

【9年間で育成する資質・能力と関連する実態】

「伝え合う力」…「授業では自分の考えを積極的に伝えている」「自分の考えを場面や状況に合わせて、分かりやすく相手に伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫している」という項目に対し、ほとんどの生徒が肯定的に捉えているが、共に約23%の生徒が否定的回答であり、自分の考えをもつことはできているが、それを「効果的に伝えるための表現の工夫」に課題がある。

○指導観

【本単元における指導の方向性】

- 単元を貫く問いとして「今の自分たちができる地域貢献とは?」を設定し、自分たちの思いだけで課題解決するのではなく、地域内外の江田島市に関わる方たちの思いや、江田島市の現状を調査する時間を確保する。これにより、客観的な視点を持ち、地域と協働しながら生徒一人一人が学習課題を考えることができるようにする。

PROJECT①では、昨年度の「江田島の魅力を残したい企画」の実効性を再考することとし、江田島市統計資料やアンケート調査等から、現状と地域が抱える課題を見つけ、江田島市の発展を目指して自分たちができる必然性のある地域貢献計画を立案し実行させる。

PROJECT②では、実行してみた地域貢献について、「環境・自然」「生き方・キャリア」「伝統・文化」「町づくり・福祉」の4テーマで活動計画を分類し、実際の貢献度を振り返ることを通して、よかった点や改善点を整理し、更に地域の方や団体等と協働して行う地域貢献として実現可能性があり、かつ、今地域に求められている地域貢献に再チャレンジできるようにする。

PROJECT③では、江田島市の発展のために中学生の自分たちができる地域貢献とは何か、発信する相手やその方法について、考え実践する活動を行う。これらの活動における相手の評価から、真の貢献とは何かに対する自分の考えを再構築したり、新たな価値を発見したりし、相手に効果的に伝えることの大切さや、探究的に学び続ける意義を考えさせる。

- 生徒主体の『探究的な学び』を実現するために、次の2点に留意して指導する。

①本質的な課題解決に向けた「探究サイクル」の充実

学習計画表を用いて、長期の学習内容の計画を立てさせることで、生徒に見通しをもった学習活動をさせる。また、「地域との協働」を仕掛け、他者評価をもらうことで、活動計画を再構築したり新たな価値を発見させたりし、課題解決の持続性をもたせる。

②生徒のつまづきを想定したファシリテートの充実

生徒自身が立案した計画に基づいて学習を進めさせる。その際、生徒自身で改善案を思案できない場合は、実施可能な手段を複数提案することで、生徒に「選択」と「自己決定」の場を確保できるようにする。

2 小・中9年間で育成したい資質・能力

	前期（小1～小4）	中期（小5～中1）	後期（中2～中3）
主体性 □やる気 □自主性 □課題発見力	自ら目標を設定し、その達成に向けて考え、判断し、探究活動に取り組もうとしている。		
	身近な人・もの・ことに進んで関わり、意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	課題を解決するために、自分から進んで、身近な人と協力しながら行動している。	課題を解決するために、自分から進んで、身近な人と協力しながら行動するとともに、解決の見通しをもち、他者の考えを受け入れよりよい解決を目指している。
伝え合う力 □表現力 □傾聴力 □対話力	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の意見を受け入れ尊重し、協働して新たな価値を生み出そうとしている。		
	自分の考えや思いを、言葉・絵・動作・劇・資料によって、相手に伝えたり、自分の学習を振り返ったり、自分の学習を振り返ったりすることができる。	伝える内容が、相手に分かりやすく伝わるように、目的に応じて資料を作ったり、複数の資料を組み合わせたりして表現することができる。	目的や相手に応じて、伝える内容を吟味したり、資料を再構成したりして、根拠を明確にして適切に表現することができる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標		
「自分たちにできる地域貢献とは？」を問い続け、江田島市の活性化に向けて取り組む人々と協働してイベントを企画・開催したりすることを通して、本市のよさや課題と自分たちの生活との関りを理解し、持続可能な江田島市の在り方と自分の将来を結び付けて考えるとともに、学んだことを活かしながら江田島市の活性化のために自分にできることを考え行動しようとする。		
単元の評価規準		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
① 江田島市には、そのよさを発信したり継承したりする人々や組織があり、それぞれ連携して取組を進めていることを理解している。 ② 江田島市の現状を捉えるために、アンケートやインタビューによる調査を相手や目的に応じた適切な方法で実施している。 ③ 持続可能な江田島市の在り方についての理解は、本市の魅力等の発信に取り組む人々と協働したことや本市の課題解決のために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 江田島市の実態や他地域との比較から課題を設定し、その解決に向けて計画を立てている。 ② 課題解決に必要な情報について、効果的な手段を選択して多様に収集し、目的や種類に合わせて蓄積している。 ③ 課題解決に向けた活動を進めるために、目的に応じて整理したり、複数の情報を比較したりするなどして分析し、具体的な取組を考えている。 ④ 持続可能な江田島市にするための考えを、表現する目的や相手に応じて内容を構成し、分かりやすく表現している。	① 江田島市のよさを活かした活性化の在り方に関心をもち、江田島市の現状を捉えたり未来予想をしたりするとともに、互いのよさを活かし自分の意思で目標をもって課題解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ② 江田島市のよさを活かした活性化を進めるために、町づくりに関わる人々等と協働して探究活動に取り組もうとしている。 ③ 持続可能で魅力的な江田島市を実現するため、江田島市のよさを認識し継承したり、人々と関わったりすることの重要性に気付くとともに、進んで江田島市の行事に参加しようとしている。

4 本単元に関する「本質的な問い」について

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
真の貢献とは？



【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
今の自分たちにできる地域貢献とは？



【個別の問い】（授業内で身に付ける知識・技能等）

- 私たちが考える地域貢献は、地域の方々が求めているものなのか？
- 江田島の魅力を残すために、自分たちでできる地域貢献とは何か？
- 江田島の魅力を残すために、活動したり効果的に発信したりすることができたか？

単元名

江田島の発展を目指して～自分たちにできる地域貢献とは？～

江田島の将来のために、今の自分(たち)にできることは。

Part1 「知る・分かる」 PROJECT① 『地域に貢献～やってみようプロジェクト!』

課題設定 自己解決ではなく客観的で必然性のある課題発見!
 ○昨年度の「江田島の魅力を残したい企画」を振り返り、また『江田島市統計資料』やアンケート調査等から、江田島市の現状と、地域が抱える課題を見つける。
 ○江田島市の発展のために、自分たちにできる地域貢献をするための計画を立てる。



情報の収集 江田島市のFacebook等これまでの人脈と発信方法を活用して、より多くの人の声を聞こうと奮闘!
 ○地域の現状と課題を捉えるために、住民、移住者、事業所、他地域の人々に幅広くインタビュー等を実施し、地域貢献の手がかりを調べる。



整理・分析
 ○様々な人の思いの共通点や相違点を整理し、江田島市の発展に繋がる地域貢献について、具体策を見つける。
 ○江田島市の将来の発展につながる地域貢献として、自分たちに実行できるかどうか分析する。

多くの人の思いを聞くことはできても、それは自分たちの力で行うことなのかと、悩み迷走する姿もみられました。

まとめ・表現
 ○自分たちにできると判断した地域貢献を計画し実行する。
 まずは自分たちの思いを大事にし、2年間の学びを活かし、自分たちで計画し、外部とやり取りし、とにかく実行してみました!



Part2 「つなげる・深める」 PROJECT② 『地域に貢献～リベンジプロジェクト!』

課題設定
 ○実行してみた地域貢献について、実際の貢献度を振り返り、良かった点や改善点を整理し、地域の方や団体等と協働した実現可能性のある地域貢献リベンジプロジェクトの計画を立てる。

PROJECT①の振り返りでは貢献度が低かったので、江田島市の発展をめざすための知見を深めるために、教師から「協働」のミッションを与えました。

情報の収集 自分たちで考えた貢献が、江田島市のどんな発展につながっていくのか、認識することができました。
 ○各グループで「環境・自然」「生き方・キャリア」「伝統・文化」「町づくり・福祉」の地域貢献のテーマを確認し、事前に準備すべきことを考える。

○協働したい地域の方や団体等の情報を収集し、コンタクトを取り貢献内容について協議、連携する。

3年間の集大成といえるくらいの活動の場の広がりや、たくさんの人との出会いがありました。

整理・分析
 ○協働したい地域の方や団体等と協議した内容を、実現可能性という視点で整理する。

協働したい団体等とのやり取りと並行し、整理・分析して計画立案に繋げていきました。計画立案は、「地域貢献計画概要確認表(スプレッドシート)」に随時入力させて、教師4人と10班の生徒が常に共有できるようにしました。

地域貢献計画概要 確認表

班	地域貢献テーマ (どのような地域貢献を目指すことで、江田島のどのような発展につながるのか)	日	どこで やるイベントで	役割と 協働先、協働事業所 (コラボレーションする方)
5班	パンフットについてのアンケートを準備の方向に基いて、準備してもら。	10月15日	MIKANマラソン	ミカンマラソンの運営の人
6班	フードイベントの準備の手伝い	11月28日	ゆめタウン江田島 11月26日集客会	江田島市協賛施設 フードの協議さんの方
7班	図書館の利用がしやすい環境づくりで読書意欲を高め、江田島市市民に対する興味を高める。	11月4日 11月5日	読書会開催	図書館の方

まとめ・表現
 ○自分たちのアイデアをまとめ、町づくり・行政関係者・市民にイベント開催の意図を伝え、自分たちでできる地域貢献を実行する。



Part3 「広げる・生かす」 PROJECT③ 『これが自分たちにできる貢献だ!発信プロジェクト』

課題設定
 ○江田島市の発展のために、協働した方達の評価等を踏まえ、自分たちの地域貢献について、これまで関わった方々に効果的に発信するための計画を立てる。

公開研究会では、参観者にも評価をいただきながら、よりよい発信のための分析をすることができ

整理・分析
 ○江田島市の発展のために、実行した地域貢献について、どのような方法で、どのような相手に発信するか「持続可能性」と「協働性」の観点で整理し、相互評価等で集めた情報を比較・分析する。



情報の収集
 ○江田島市の発展のために、各グループ同士で地域貢献内容や自己評価貢献度をプレゼンテーションし、相互評価したり協議したりして、発信に必要な事項を収集する。

3年間で関わった方々に生徒自らアポイントを取り、活動報告や自分たちの思いを語り合う会を開きました

まとめ・表現
 ○1年間の学習の成果を、関わってきた方達に発信する。
 ○1年間の学習の成果をもとに、自分と江田島市との関わりについての変化や、自分自身の成長について振り返る。



単元のゴール

江田島の発展を目指して、自分たちにできる地域貢献を実行する。

国語
情報整理のレッスン

国語
思考のレッスン

社会
わたしたちの生活と現代社会(公民)

英語
ディスカッション

国語
説得力のある構成を考えよう(スピーチ)

道: C-(16)郷土の伝統と文化の尊重

国語
多角的に分析して書こう

国: 三年間の歩みを振り返ろう

道: A-(5)真理の探究、創造

6 本時の展開 (54/60 時間)

(1) 本時の目標

目的に応じて整理したり、複数の情報を比較したりするなどして分析し、具体的な取組を考える。
(思考・判断・表現③)

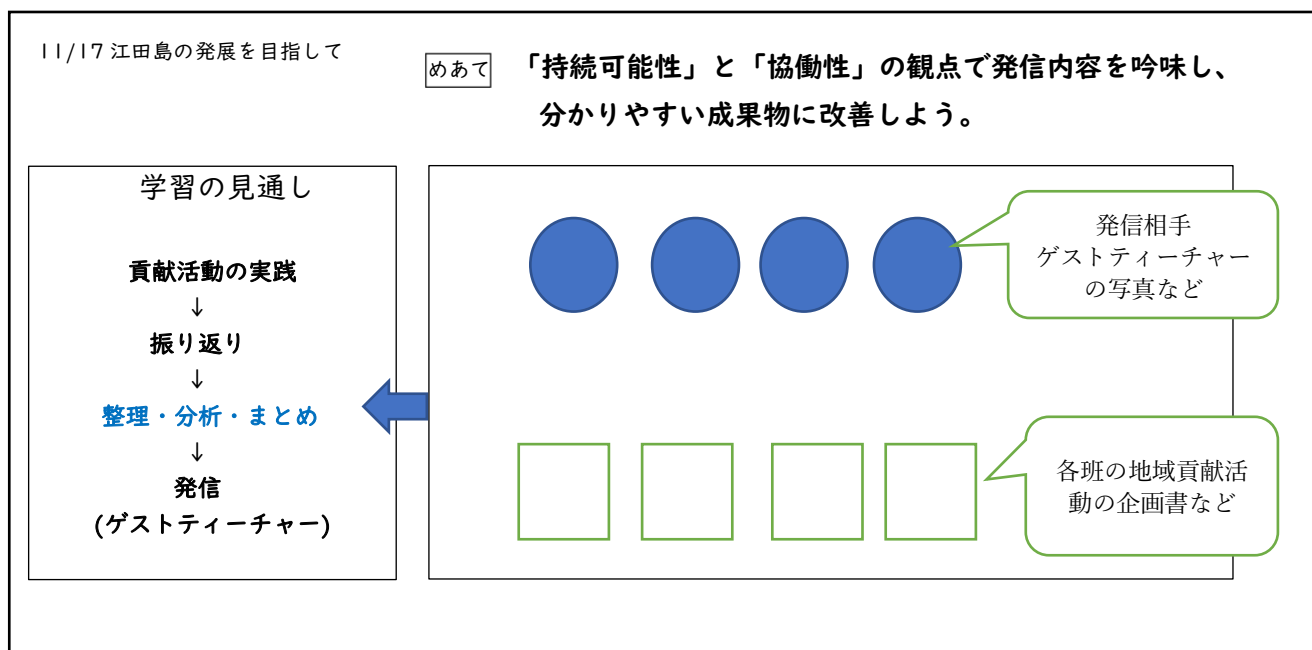
(2) 学習展開

	生徒の学習活動 ○発問 ・予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ●評価
課題の設定	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まずは、前時に評価してもらった内容で、質問したいことがあったら評価者に聞いたり、班で相談したりして改善点を整理しよう。 ○ 具体的な改善策を発表してください。(複数班発表) <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの思いだけで実行した活動のような内容になっているので、地域に寄り添った貢献であることを伝えたい。 ・発信した相手が「貢献」について、私たちと同じように課題意識を持ってもらえるように、私たちの思いをしっかりと伝えられる内容に改善したいです。 ・砲台山清掃活動は、地域の人達と協働する方が、山の環境維持としては効果が高いと実感したので、そのことを発信したいです。 ○ 1年前の交流で発信した江田島の魅力を持続可能な魅力にするための方策として、どのような思いでどんな地域貢献をしたか。また効果的に伝えるための工夫について、仲間の意見を生かしながら、発信内容の改善をしよう。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回の振り返りを見て、今日のめあてを確認しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を振り返り、本時の目標を設定させる。
	<p>めあて 「持続可能性」と「協働性」の観点で発信内容を吟味し、 分かりやすい成果物に改善しよう。</p>	
整理・分析・表現	<p>3 改善点を共有し、整理・分析し、よりよい表現の工夫を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 改善点を共有して、改善を進めよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜこの「町づくり」がテーマの地域貢献をしたのか、私たちの思いも付け加えたい。 ・地域の人達と一緒に活動することの大切さを前面に出そう。 ・はじめにアンケート調査に協力してくれた方達のデータや思いも踏まえて実行したことも、きちんと伝えよう。 ・実際に持続可能な貢献活動にはなっていないかもしれないけど、こんなふうに考え続けることが大切だということを伝えたい。 ・もっとチャレンジしたいことも伝えよう。 ○ 改善できたところを発表しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査に協力してくれた人たちの思いや意見をデータ化して示すことで、自分たちの思いだけではなく、実際の様々な声から地域貢献を計画したことを明確にすることができました。 ・協働も大切だけど、一人一人が日常でできる具体的な地域貢献に繋がる活動内容の提案も付け加えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習形態(個人・ペア)は生徒の学習状況に応じて、各々判断させる。 ・個人での改善活動ができない生徒には、実施可能な手段を複数提案し、「選択」と「自己決定」の場を確保する。 <p>●目的に応じて整理したり、複数の情報を比較したりするなどして分析し、具体的な取組を考えている。(思考・判断・表現③)</p>
振り返り	<p>4 学習の進捗状況を自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習を振り返って、自分の学習を評価しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことが分かりやすく整理できた。 ・目的をはっきりさせた活動内容に改善できた。 	

(3) 本時のルーブリック

目標	目的に応じて整理したり、複数の情報を比較したりするなどして分析し、具体的な取組を考える。(思考・判断・表現③)
A	表現する目的や相手に応じて、根拠を明確にして発信する内容を選び、分かりやすい成果物に改善している。
B	表現する目的や相手に応じて、発信する内容を選び、分かりやすい成果物に改善している。

(4) 板書計画



別途電子黒板に、学習の見通しを掲示し、進捗状況が分かるようにする。

生徒に配布する自己評価シート (例)

月 日 ()	今日の目指すゴールの貢献度は？							
本時のレベルアップしたい力に○しよう 主体性・伝え合う力	<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> <td>40%</td> </tr> </table>	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%
100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%		
評価の理由：貢献度数値の理由を書こう。どのようにして何ができたか・できなかったか。								
次の学習に向けての目標								